

仙台防災未来フォーラム 2017「地域のきずな」が生きる防災まちづくり」を企画・実施しました (2017/03/12)

テーマ: 仙台防災枠組み、防災、まちづくり
場所: 仙台国際センター (仙台市青葉区)

3月12日(日)、『仙台防災未来フォーラム2017』テーマセッション第二部セッションDとして、仙台市の主催による「『地域のきずな』が生きる防災まちづくり～仙台市の事例から学ぶ～」が開催されました。当研究所の佐藤 健 教授 (情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野) が企画・実施に関わり、当日の開会と進行、まとめを行いました。同セッションには、約160名が参加しました。

同セッションでは、仙台市で先進的な防災活動を行っている3地区から、青葉区片平地区連合町内会の今野 均 会長、若林区南材地区町内会連合会の菅井 茂 会長、宮城野区福住町町内会の菅原 康雄 会長がそれぞれ事例発表を行いました。同セッションは、日常的なまちづくり活動が活発でそれが防災の優れた取組みにつながっているこれら3地区で「なぜそのような活動ができるのか」、「子ども、笑顔、いきいき」をキーワードに、コミュニティにおける地域防災の今後の活動や課題解決のヒントを得ることをねらいに企画されたものです。

3事例の発表に続いて、佐藤健教授から①防災『も』できるまちづくりが重要、②遠回りのようでも、「まちづくり、人づくり、絆づくり」に取り組むことが持続可能な防災活動や次世代の人材育成につながる、③多様な地域人材の発掘、将来のよきまち衆の育成、大人が生き生きと地域活動に取り組む姿、地域の自然と歴史を地域ぐるみで理解すること、こうした活動の好循環を実現するための情報共有の場づくりが欠かせないこと、の3点がまとめとして述べられ、セッションは締めくくられました。



開会 (佐藤健教授)



片平連合町内会
今野会長



南材地区町内会
菅井会長



福住町内会
菅原会長

文責: 桜井 愛子、佐藤 健 (情報管理・社会連携部門)